

令和5年度 学力向上重点指定校報告書 清和中学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

本校は、令和2年度から2年間、「個に応じた指導研究校」の指定を受け、「基礎学力の定着と、協働学習を取り入れた授業づくり」をテーマに研究を行っていたが、令和4年度全国学力・学習状況調査(数学)の結果は、正答率30%未満の生徒の割合が令和3年度18.3%、令和4年度53.4%と非常に高い。

また、令和4年度生徒アンケートによると家庭学習の時間が1時間以下という生徒が56.1%、その内、「全くしない」という生徒が6.8%と反復の機会である家庭学習の習慣がなく、基礎学力が定着しにくい状況である。

一方で、学校評価の生徒アンケートの結果では、「授業の内容が分かりやすいです」の質問について、全校で88.1%の生徒が肯定的評価の回答をしており、学力調査の素点結果とは乖離したものとなっている。

授業の内容が分かりやすいです	
そう思う	59.0%
だいたいそう思う	29.1%
あまりそう思わない	6.7%
思わない	5.2%

2 研究主題

「生徒が主体的に考える授業実践による基礎学力の定着」
～協働学習・家庭学習の取組を通して～

3 取組内容

※1の課題解決に向けて、重点的に取り組む項目とその具体

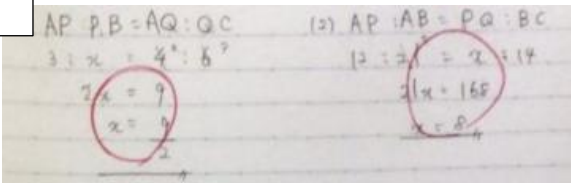
(1) 清和中学学習スタンダードの作成

- 校内研修における授業の進め方の確認
(『学習の手引き』を利用)
- 『学習の手引き』を用いた、全校生徒への授業の取り組み方ガイダンス

(2) 「めあて」と「振り返り」の工夫

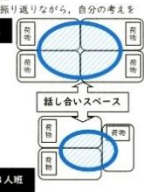
- 「めあて」に対する「振り返り」を記述
例) 知識・技能

めあて 「・・・の定理を使って長さを求めることができる」

振り返り 

◆ グループワークの進め方

- 2人組のペア学習、3～4人の小グループ等で考える場面があります
- 一人で考える時間では、静かに課題に向かい、教科書やノートを振り返りながら、自分の考えをもちましよう。
- 机を向き合わせて、しっかりとくっつけましよう。
- 荷物は横に置き、真ん中を開けて、「みんなて話し合うスペース」をしっかりとましよう。
- グループワークによっては、話し合いを進行する「司会」とメモを取る「記録」、発表を担当する「発表者」を決め、話し合いを始めましよう。
- 問題を読んだり、質問を見直したりして、自分の考えをもち、グループの人に自分の考えを伝えましよう。
 - ×「全然わからない」
 - 「～までわかった」
 - 「～からわからない」
- 自分の考えを伝えるときには、自分のノートやメモをグループの人に見せたり、指で指したりしながら説明するなど、工夫をましよう。
 - 「ここはどこうはね～」
 - 「ここがわからないから～」
- 人の発言には、体と目を向けましよう。(目で聴き、心で聴く)
- 仲間の意見を大事にましよう。
- 特に、人の意見を見下したり笑ったりすることは、絶対に禁されまません。
 - ×「なんでわからないの」
 - ×「簡単なのに」
 - ×「こんなこともできないの」
- 分からないことやできないことがあったときは、積極的に同じ班の人に質問しましよう。
 - 「なんでそうなるの？」
 - 「～になることが、わからないよ」
 - 「言い方を変えて、もう一度言って」
- 先生から課題が出されたら、いろいろな方法を考えましよう。班の中で解決策が見つからなければ、先生に助言を求めましよう。
- 答え(結果)だけを知ろうとするのではなく、考え方や解き方を知ろうとすることが大切で、答え(結果)だけを見せるのではなく、考え方や解き方を伝えましようことが大切です。



【 清和中学校 授業のための5つのポイント 】

- 次の授業道具を準備してから休憩ましよう。
- 開始2分前には着席して、すぐに授業が始まられるようにましよう。(着ベル)
- 始末後礼で、元気のよいあいまつをましよう。
- わからないところは「教えて」や「ここはどうなるの?」と、積極的に質問ましよう。
- 聞かれた人は、わかるところまでいいので、丁寧に答えてあげましよう。



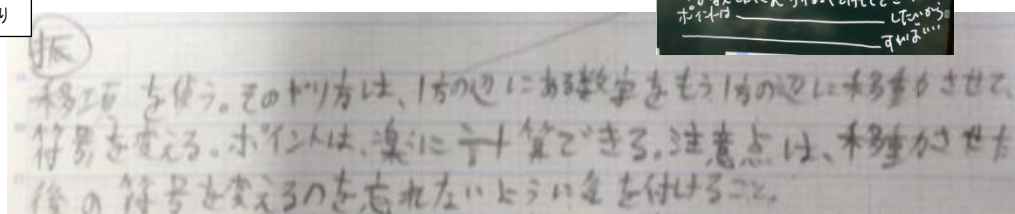
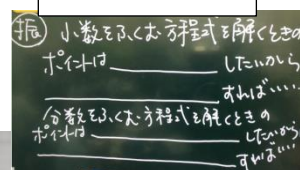
『学習の手引き』 p5より

例) 思考・判断・表現

めあて 「・・・解く方法を説明できる」

振り返り

振り返りの指示の例



(3) 定期的な小テスト+追試の実施

- ・ 内容は計算等の基本的事項
- ・ 追試は小テストと同形式で問題を少し変え、できるだけ小テストと期間を空けずに実施

(4) 家庭学習習慣の定着

- ・ 取り組み時間を意識した宿題の指示
- ・ 宿題の提出日と量を共有するためのクラス掲示
- ・ 『学習の手引き』を用いた、家庭学習の取り組み方と SNS 利用時間削減指導

(5) 校内研修会の充実

- ・ 研究授業 (校内・小中連携)
- ・ 外部講師を招聘しての校内研修会

4 検証結果

※成果指標の検証方法および結果

標準学力調査において、1学年の平均正答率の全国との差が1.2ポイント改善した。特に活用問題では、13.5ポイントと大きく改善した。

数学	標準学力調査 (平均正答率)			
	5月		12月	
	全体	活用	全体	活用
1学年	63.8%	48.6%	52.1%	38.4%
全国との差	-3.7	-12.4	-2.5	+1.1

(1) 清和中学学習スタンダードについて

- ・ 職員アンケートで、「1単元に1回以上課題解決的授業を取り入れている」の「そう思う」の回答が増加した。
- ・ 生徒アンケートで、「めあてを意識して授業を受けている」の「そう思う」の回答が昨年度に比べて増加した。

	1単元に1回以上課題解決的授業を取り入れている	
	そう思う	だいたいそう思う
中間(7月)	7.7%	69.2%
最終(12月)	36.4%	45.5%

	めあてを意識して授業を受けている	
	2学年	3学年
R4 最終(12月)	65.9%	58.3%
R5 最終(12月)	75.2%	69.8%

(2) 定期的な小テスト+追試の実施

- ・ 定期的に行うことで、家庭学習の動機付けになった。
- ・ 追試は点数が上がる傾向があり、学習意欲の向上につながった生徒もいた。

(3) 家庭学習習慣の定着について

- 2学年の家庭学習が1日に1時間未満の生徒の割合は、今年度は、昨年度末より低いものの、今年度においては、中間より最終の結果が僅かではある改善している。

	家庭学習が1日に1時間未満		
	R4 最終	R5 中間	R5 最終
2年生	70.4%	83.6%	79.7%

(4) 校内研修会の充実について

- 生徒アンケートで、「すすんでグループ活動に参加している」と回答した生徒の割合が、1学年では微減しているものの、2・3学年は増加している。

	すすんでグループ活動に参加している	
	R5 中間	R5 最終
1学年	79.1%	78.0%
2学年	87.3%	91.1%
3学年	87.1%	90.8%

5 研究成果

※成果・課題等

(1) 清和中学学習スタンダードについて

- 『学習の手引き』を用いた校内研修および全校生徒へのガイダンスを行ったことは、教員と生徒にとって、授業と家庭学習の取組について共通確認を持つことと意識の向上について大いに有効であった。しかし、1年間を通して意識して取り組めたかを振り返ると、時間の経過による意識の薄れや、個々の意識の差によって停滞した面もあった。
- 標準学力調査の活用問題が大きく改善したことについて、課題解決的授業を意識的に取り入れたことや、思考・判断・表現に関する授業では「説明できる」ことを「めあて」にし、それに対応する「振り返り」を記述させたことが有効であったと考えられる。

(2) 定期的な小テスト+追試の実施

- 小テストをやりっぱなしではなく、追試を実施することで、学力の定着に課題のある生徒が基本的な内容の定着とともに、家庭学習等の動機づけにもつながった。

(3) 家庭学習習慣の定着について

- 宿題の取組時間を提示したことは、「この時間まで頑張ろうと思える」「その時間には終わらせよう意識した」「短い時間の宿題は、空いた時間にやろうと計画できる」など、生徒は肯定的なとらえ方をしている。一方で、家庭学習をほとんどしない生徒も依然としており、さらなる取組みを行う必要がある。また、クラス掲示の取組みは形骸化してしまった。

(4) 校内研修会の充実について

- 広島大学大学院人間社会科学研究科の木下博義教授を招聘して「探求型学習」について校内研修を行い、総合的な学習の時間と教科との往還や非認知能力について学ぶことができた。

(5) 今後について

- 家庭学習についての成果が出なかったのは、取組状況の確認回数不足が原因と考える。3か月程度のスパンで振り返り、改善しながらよりよい取組にしていく必要がある。
- 基礎学力の定着については、現在行っている教科の授業改善だけではなく、今年度研修等で学んだ探求型学習や非認知能力の育成にかかわる取組などにも目を向け、本校の実態に合った取組を選び、学校全体で足並みを揃えて推進していきたい。